

平成26年度  
全国私立中学高等学校

# 第62回 全国私学教育研究集会東京大会

## 実施案内



# 21世紀の教育を考える

## ～グローバル教育を目指して～



**会 期** 平成26年10月16日(木)・17日(金)の2日間

**会 場** 〈東京都港区〉グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール 他

**主 催** 一般財団法人私学研修福祉会

**協 力** 一般財団法人日本私学教育研究所

**実 施** 一般財団法人東京私立中学高等学校協会

**後 援** 東京都 / 公益財団法人東京都私学財団 / 日本私立中学高等学校連合会



## も く じ

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| ご案内                                     | 1  |
| 大会役員等一覧                                 | 3  |
| 実施概要                                    | 4  |
| 全体集会                                    | 6  |
| 教育懇談会のご案内                               | 8  |
| 部会のご案内                                  | 9  |
| 1 私学経営部会                                | 10 |
| 2 教育課程部会                                | 12 |
| 3 法人管理事務運営部会                            | 14 |
| 4 I C T活用部会                             | 16 |
| 5 グローバル教育部会                             | 18 |
| 6 環境教育部会                                | 20 |
| 7 生徒支援教育部会                              | 22 |
| 会場のご案内                                  | 24 |
| 参加申込みと参加費の納入について                        | 26 |
| 教育懇談会・宿泊のお申込みについてのご案内                   | 27 |
| 平成26年度 第62回全国私学教育研究集会東京大会 参加申込書         |    |
| 平成26年度 第62回全国私学教育研究集会東京大会 教育懇談会および宿泊申込書 |    |



## ご 案 内

平成26年度の「第62回全国私学教育研究集会東京大会」は「21世紀の教育を考える～グローバル教育を目指して～」をテーマに、10月16日（木）・17日（金）の2日間、東京都港区のグランドプリンスホテル新高輪・国際館パミールをメイン会場として開催いたします。

本大会につきましては、基本日程や会場、設置部会とそのテーマなどを速報版にて、お知らせいたしましたが、全体集会のより詳しい内容と設置7部会の具体的概要が決まりましたので改めてご案内申し上げます。

日本や世界を担う人材を育成している私学では、各校の建学の精神のもと、これまでも多くの優れた人材を世に送り出してきました。少子化や、経営的な問題等、私学を取り巻く状況は一層厳しさを増すことが予測されますが、改めて各校は自校の持つ建学の精神に立ち返り、未来に目を向けた教育施策のもと、独自性を遺憾なく発揮した教育を進めていこうではありませんか。そういう意味では、私学は「教育再生」というよりむしろ、「教育最盛」を目指して取り組んでいかなければならないと思っております。

東日本大震災からの復興や、2020年の東京五輪の成功裡を視野に入れつつ、グローバルな時代を共に生きる社会を目指すため、私たちは世界に通用する多くの人材を育成していかなければなりません。「学校に通う生徒は未来からの留学生」とはよく聞く言葉ですが、その未来からの留学生がその時代に戻ったときに何が出来るかを考えてもらうために、メインテーマに「21世紀の教育を考える～グローバル教育を目指して～」を掲げました。

1日目の全体集会では、日本私立中学高等学校連合会会長の吉田晋先生と一般財団法人日本私学教育研究所所長の中川武夫先生より「教育政策と私学情勢について」との演題で最新の私学政策等のお話をいただきます。次に、東京大学大学院教育学研究科教授の三宅なほみ先生をお迎えし、記念講演「新しい学び～21世紀型スキルをひとりひとりに～」との演題でお話をいただきます。様々な主張が展開される中で、より良い解決策を見いだしていくためには、どのような能力・スキルを身につけておいたらよいのか、先生の研究・実践に基づいたお話をいただきます。

2日目は、全体のテーマに沿った7つの部会を開催いたします。各部会ともこれからの時代に即した教育の在り方を目指した内容になっておりますので、多岐に亘って大いに議論をしていただければと思っております。

グローバル化が進展する中、「日本の教育は私学がリードする」という信念で今回の東京大会を成功裡に導きたいと願っております。会場は羽田空港に近く、新幹線停車駅のJR品川駅から徒歩10分という至便なところにありますので、是非、全国から多くの皆様が参加されますよう、ご案内申し上げます。

平成26年5月

第62回全国私学教育研究集会東京大会

実行委員長 近 藤 彰 郎

（一般財団法人東京私立中学高等学校協会 会長）



# 大会役員等一覧

## 1. 大会役員（順不同）

|       |                                  |                          |
|-------|----------------------------------|--------------------------|
| 増田 壽男 | 一般財団法人私学研修福祉会<br>前法政大            | 理事長・総長                   |
| 吉田 晋  | 一般財団法人日本私学教育研究所<br>富士見丘中学高等学校    | 理事長・校長                   |
| 近藤 彰郎 | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>八雲学園中学高等学校 | 会長<br>理事長・校長             |
| 實吉 幹夫 | 一般財団法人日本私学教育研究所<br>東京女子学園中学高等学校  | 副理事長・全国集会総括責任者<br>理事長・校長 |
| 山中 幸平 | 一般財団法人日本私学教育研究所<br>学校法人山中学園      | 副理事長<br>理事長              |
| 中川 武夫 | 一般財団法人日本私学教育研究所<br>蒲田女子高等学校      | 所長<br>顧問                 |
| 鈴木 康之 | 一般財団法人日本私学教育研究所<br>水戸女子高等学校      | 全国集会副総括責任者<br>理事長・校長     |

## 2. 実行委員・指導員（順不同）

|           |                                     |                      |
|-----------|-------------------------------------|----------------------|
| 委員長 近藤 彰郎 | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>八雲学園中学高等学校    | 会長<br>理事長・校長         |
| 委員 實吉 幹夫  | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>東京女子学園中学高等学校  | 副会長<br>理事長・校長        |
| 平方 邦行     | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>工学院大学附属中学高等学校 | 副会長<br>校長            |
| 木内 秀樹     | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>東京成徳大学中学高等学校  | 副会長<br>理事長・校長        |
| 吉田 晋      | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>富士見丘中学高等学校    | 常任理事<br>理事長・校長       |
| 嘉悦 克      | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>かえつ有明中学高等学校   | 常任理事<br>理事長・校長       |
| 清水 哲雄     | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>学校法人鷗友学園      | 常任理事・研究所長<br>常務理事    |
| 長塚 篤夫     | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>順天中学高等学校      | 総務部長<br>校長           |
| 嵯峨 実允     | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>学校法人町田学園      | 広報部長<br>理事           |
| 須藤 勉      | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>東京学園高等学校      | 文化部長<br>副校長          |
| 伊藤 淑子     | 一般財団法人東京私立中学高等学校協会<br>村田女子中学高等学校    | 庶務・会計部長<br>校長        |
| 中川 武夫     | 一般財団法人日本私学教育研究所<br>蒲田女子高等学校         | 所長<br>顧問             |
| 鈴木 康之     | 一般財団法人日本私学教育研究所<br>水戸女子高等学校         | 全国集会副総括責任者<br>理事長・校長 |

## 3. 運営総括委員・指導員（順不同）

|            |               |        |
|------------|---------------|--------|
| 委員長 清水 哲雄  | 学校法人鷗友学園      | 常務理事   |
| 副委員長 實吉 幹夫 | 東京女子学園中学高等学校  | 理事長・校長 |
| 委員 平方 邦行   | 工学院大学附属中学高等学校 | 校長     |
| 長塚 篤夫      | 順天中学高等学校      | 校長     |
| 山本 与志春     | 学校法人青山学院      | 常務理事   |
| 平 美佐子      | 桜丘中学高等学校      | 校長     |
| 鈴木 弘       | 立教池袋中学高等学校    | 校長     |
| 須藤 勉       | 東京学園高等学校      | 副校長    |
| 小岩 利夫      | 日本学園中学高等学校    | 校長     |
| 伊藤 淑子      | 村田女子中学高等学校    | 校長     |

## 実施概要

- 1 研究目標 21世紀の教育を考える ～グローバル教育を目指して～
- 2 会 期 平成26年10月16日（木）・17日（金）の2日間
- 3 会 場 

初 日・全体集会

  
 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール  
 （東京都港区高輪3-13-1 TEL 03-3442-1111）  

2日目・部 会

  
 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール  
 広尾学園中学高等学校（ICT活用部会のみ）  
 （東京都港区南麻布5-1-14 TEL 03-3444-7271）
- 4 募集人員 1, 0 0 0 名
- 5 基本日程

| 時間<br>月日             | 9      | 10          | 11  | 12     | 13          | 14     | 15 | 16          | 17 | 18    |
|----------------------|--------|-------------|-----|--------|-------------|--------|----|-------------|----|-------|
|                      |        | 30          |     | 30     | 30          | 30     | 30 | 20          |    | 40    |
| 第1日<br>10月16日<br>(木) |        |             |     | 受<br>付 | 開<br>会<br>式 | 全 体 会  |    |             |    | 教育懇談会 |
|                      |        |             |     |        |             | 報<br>告 |    | 記念講演        |    |       |
| 第2日<br>10月17日<br>(金) | 受<br>付 | 開<br>会<br>式 | 部 会 |        | 昼 食         | 部 会    |    | 閉<br>会<br>式 |    |       |

(注)第2日の部会日程につきましては、部会によっては、若干異なる場合がございます。詳細は各部会実施概要をご覧ください。

## 6 全 体 会

報 告 「教育政策と私学情勢について」

日本私立中学高等学校連合会 会 長 吉 田 晋  
 一般財団法人日本私学教育研究所 所 長 中 川 武 夫

記念講演 「新しい学び～21世紀型スキルをひとりひとりに～」

東京大学大学院教育学研究科 教 授 三 宅 なほみ

## 7 部 会

- |              |                              |        |
|--------------|------------------------------|--------|
| 1 私学経営部会     | 変革を迫られているグローバル化時代における私学経営の展望 | (350名) |
| 2 教育課程部会     | 21世紀における新たな教育の構築             | (150名) |
| 3 法人管理事務運営部会 | 新たな時代を見据えた法人管理事務組織の活性化       | (100名) |
| 4 ICT活用部会    | ICT活用の最新事例に接し、課題と可能性を探る      | (100名) |
| 5 グローバル教育部会  | グローバル化に対応する私学の教育             | (100名) |
| 6 環境教育部会     | 「水」生きものの源                    | (100名) |
| 7 生徒支援教育部会   | 他者を理解し自己理解を図り、共に成長する学習環境の創造  | (100名) |

8 参加費      **15,000円** (宿泊費・教育懇談会費は含みません。)

9 参加申込      本案内の26ページを参照いただき、9月26日(金)までに参加申込みをお願いします。

10 問 合 先      一般財団法人日本私学教育研究所  
                    「全国私学教育研究集会東京大会」担当  
                    〒102-0073 東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル6階  
                    TEL 03 (3222) 1621      FAX 03 (3222) 1683  
                    ホームページ <http://www.shigaku.or.jp/>

# 全体集会

- 1 日 時 平成26年10月16日（木） 12時30分～17時00分  
2 会 場 グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール 3階 崑崙  
3 開 会 式 12時30分～13時15分

- (1) 開会のことば
- (2) 大会役員挨拶
- (3) 実行委員長挨拶
- (4) 来賓祝辞
- (5) 祝電紹介
- (6) 登壇者紹介
- (7) 次期開催地代表挨拶
- (8) 閉式のことば

- 4 全 体 会 13時30分～17時00分

報 告 「教育政策と私学情勢について」

日本私立中学高等学校連合会 会 長 吉 田 晋  
一般財団法人日本私学教育研究所 所 長 中 川 武 夫

記念講演 「新しい学び～21世紀型スキルをひとりひとりに～」

東京大学大学院教育学研究科 教 授 三 宅 なほみ

- 5 全体集会運営委員・指導員（順不同）

委 員 長 平 方 邦 行（工学院大学附属中学高等学校 校長）  
副委員長 實 吉 幹 夫（東京女子学園中学高等学校 理事長・校長）  
委 員 清 水 哲 雄（学校法人鷗友学園 常務理事）  
長 塚 篤 夫（順天中学高等学校 校長）  
木 内 秀 樹（東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長）  
須 藤 勉（東京学園高等学校 副校長）  
山 本 与志春（学校法人青山学院 常務理事）  
嘉 悦 克（かえつ有明中学高等学校 理事長・校長）  
嵯 峨 実 允（学校法人町田学園 理事）  
高 橋 あゆち（学校法人井之頭学園 理事長）

## 記 念 講 演

「新しい学び～21世紀型スキルをひとりひとりに～」



東京大学大学院教育学研究科 教 授

三 宅 なほみ

### プロフィール

東京都出身。1972年お茶の水女子大学文教育学部卒業。1982年カリフォルニア大学サンディエゴ校心理学科博士課程 Ph. D. 修了。1984年青山学院女子短期大学助教授、1991年中京大学情報理工学部教授を経て、2008年東京大学大学院教育学研究科教授。2013年東京大学大学総合教育研究センター教授（大学発教育支援コンソーシアム推進機構副機構長）。

近著に「21世紀型スキル：学びと評価の新たなかたち」（監修・翻訳、北大路書房、2014・4）、教育心理学概論（放送大学教材）（共著、放送大学教育振興会、2014. 3）、教育心理学特論（概念の発達他9章を分担執筆、放送大学教育振興会、2012. 3）『『学び』の認知科学事典』（分担執筆、大修館書店、2010. 02）等。

## 教育懇談会のご案内

全体集会終了後に、教育懇談会を実施いたします。全国からお集まりいただいた先生方との情報交換、懇談を通して、交流を深めていただき、関係者のネットワークづくりの場といたします。

是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 受付・開場 | 17時40分                       |
| 開宴    | 18時00分                       |
| 会場    | グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール3階「北辰」 |
| 参加会費  | 8,000円                       |
| プログラム |                              |

司会 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長 木内 秀 樹

1. 開 会
2. 主催者挨拶
3. 開催地代表挨拶
4. 来賓祝辞
5. 乾 杯
6. アトラクション

歌手の今井絵理子（SPEED）さんと八雲学園中学高等学校の生徒によるミニライブ

※今井絵理子さんには、生徒支援教育部会のパネル・ディスカッションに保護者の立場でパネリストをお願いしております。



7. 歓 談
8. 次期開催地代表挨拶
9. 閉 会

★参加部会別着席形式にて行います。

※参加をご希望の方は、27ページ「教育懇談会・宿泊のお申込みについてのご案内」をご覧ください。  
別途お申込みください。

## 部会のご案内

### 1 私学経営部会

変革を迫られているグローバル化時代における私学経営の展望

### 2 教育課程部会

21世紀における新たな教育の構築

### 3 法人管理事務運営部会

新たな時代を見据えた法人管理事務組織の活性化

### 4 ICT活用部会

ICT活用の最新事例に接し、課題と可能性を探る

### 5 グローバル教育部会

グローバル化に対応する私学の教育

### 6 環境教育部会

「水」生きものの源

### 7 生徒支援教育部会

他者を理解し自己理解を図り、共に成長する学習環境の創造

# 1 私学経営部会

社会や実業界におけるグローバル化の加速度的な進展を受けて、今世紀に入ってからでは中教審答申等において「国際（international）化」に代わり、「グローバル（global）化」が用いられるようになった。そして今、文部科学省は「グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成」を図るため、大学教育や中等教育、さらには初等教育におけるグローバル化を急ピッチで推進しようとしている。

もとより私立学校は英語教育や国際理解、国際交流、海外留学などの分野で常に先進的に取り組み、一定の社会的評価を得ている。しかし、公立学校での同様の動きを、国を挙げて進めている現在、私立学校の経営にも従来の取組みや枠組みを超えた、グローバル化に対応する21世紀型教育への変革が求められてきているといえる。

そこで本部会では、まず講演・報告を通じて、国の教育政策の動向や今日の私学経営についての課題を把握した上で、実業界やIB教育校の経営者を交えたパネル・ディスカッションによって、変革を迫られているグローバル化時代における私学経営について、その展望を探っていききたい。

- 1 研究目標 変革を迫られているグローバル化時代における私学経営の展望
- 2 会場 グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール
- 3 募集人員 350名
- 4 日程

| 時間<br>月日 | 9  | 10   | 11 | 12    | 13 | 14           | 15 | 16 | 17  |
|----------|----|------|----|-------|----|--------------|----|----|-----|
|          | 15 |      |    | 15    | 15 |              |    | 45 |     |
| 10月17日   | 受付 | 講演 I | 報告 | 講演 II | 昼食 | パネル・ディスカッション |    |    | 閉会式 |

## 5 内容

### 講演 I

演題 「教育制度改革の動向とグローバル教育」(仮)

講師 文部科学事務次官

山中伸一

### 講演 II

演題 「今日の私学経営における課題と展望」

講師 (東京) 八雲学園中学高等学校 理事長・校長 近藤彰郎

### 報告

テーマ 「教育改革と私立学校」

報告者 (東京) 東京女子学園中学高等学校 理事長・校長 實吉幹夫

### パネル・ディスカッション

テーマ 「グローバル化時代に求められる人材育成と学校経営」

～経営者の視点からグローバル社会と私学の未来を探る～

パネリスト 日本 G E 株式会社 代表取締役社長兼 CEO 安 淵 聖 司  
G E キ ャ ピ タ ル

パネリスト 東京インターナショナルスクール 代 表 坪谷ニューエル郁子  
日本国際教育センター

パネリスト (東京) 麴町学園女子中学高等学校 理事長・校長 相 川 忠 洋

コーディネーター (東京) 聖パウロ学園高等学校 理事長・校長 高 橋 博

## 6 講師プロフィール

### 安 洵 聖 司

1979年、早稲田大学政治経済学部卒、三菱商事入社。90年、ハーバード・ビジネススクール MBA 修了。99年、米投資ファンド、リップルウッドの日本法人立ち上げに参画。01年、UBS 証券会社入社。投資銀行本部の運輸および民営化責任者として、多くの大型案件を手がける。06年、GE コマーシャル・ファイナンスにアジア地域事業開発担当副社長として入社。07年、GE コマーシャル・ファイナンス・ジャパン社長兼 CEO に就任。09年、GE キャピタル社長兼 CEO に就任し、日本の金融サービス事業全般を統括、現在に至る。

### 坪谷ニューエル郁子

イリノイ州立西イリノイ大学 WESL 修了、早稲田大学卒。東京インターナショナルスクール代表、日本国際教育センター代表、NPO インターナショナルセカンダリースクール理事長、グローバル人材研究所代表取締役。著書に「英語のできる子どもを育てる」(講談社)、「絶対、わが子は『英語のできる子』に!」(PHP 研究所)、「小学校総合的な学習英語活動 Activity Pack I~Ⅲ」(東京書籍)、「世界で生きるチカラ―国際バカロレアが子どもたちを強くする」(ダイヤモンド社)。

### 相 川 忠 洋

1964年、慶應義塾大学経済学部卒、住友商事入社。ニューヨーク駐在、イラン住友商事会社社長、原油部長、ハノイ事務所長。1996年、USJ 取締役(運営・マーケティング本部)歴任。2005年、麴町学園着任。2010年より理事長、2014年より校長を兼務。現在に至る。

## 7 運営委員・指導員(順不同)

|       |         |                     |
|-------|---------|---------------------|
| 委 員 長 | 長 塚 篤 夫 | (順天中学高等学校 校長)       |
| 委 員   | 高 橋 博   | (聖パウロ学園高等学校 理事長・校長) |
|       | 渡 辺 眞 人 | (共立女子中学高等学校 校長)     |
|       | 増 田 幹 子 | (学校法人駒場学園 副理事長)     |
|       | 大 場 一 人 | (立正大学附属立正中学高等学校 教頭) |
|       | 住 川 明 子 | (跡見学園中学高等学校 副校長)    |
|       | 武 井 秀 行 | (かえつ有明中学高等学校 教諭)    |

## 8 専門委員・客員研究員・指導員(順不同)

|       |         |                            |
|-------|---------|----------------------------|
| 委 員 長 | 實 吉 幹 夫 | (東京女子学園中学高等学校 理事長・校長)      |
| 副委員長  | 鈴 木 康 之 | (水戸女子高等学校 理事長・校長)          |
| 委 員   | 長 塚 篤 夫 | (順天中学高等学校 校長)              |
|       | 木 内 秀 樹 | (東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長)      |
|       | 梅 村 光 久 | (学校法人梅村学園 松阪法人本部長)         |
|       | 新 田 光之助 | (筑陽学園中学高等学校 理事長・高校長)       |
| 客員研究員 | 野 原 明   | (文化学園大学杉並中学高等学校 特別顧問・名誉校長) |
|       | 真 城 義 麿 | (大谷中学高等学校 前校長)             |

## 2 教育課程部会

近年の学校教育では、主体的に考える力の育成が重視され、授業では能動的な学習や協働学習などの取組みがなされるようになった。また、グローバル化に対応する教育、数学・理科教育、ICTを活用した教育、キャリア教育などの推進が求められている。教育課程部会では、それらにおける諸問題や課題を含めて、私たちが追求すべき「21世紀における新たな教育」について考える場を提供したいと思う。

基調講演では、「学びの質を深めるために」を演題として東京大学大学院教育学研究科教授の秋田喜代美先生に、授業のあり方について事例を交えながらお話しいただく。その後、東京の三つの私立学校に「特色ある教育の実践例」を発表していただく。また、東京私学教育研究所教務運営研究会で毎年調査している「教務運営に関するアンケート」の集計結果を利用した東京私学の現状報告をする。

1 研究目標 21世紀における新たな教育の構築

2 会場 グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール

3 募集人員 150名

4 日程

| 時間<br>月日 | 9  | 10  | 11   | 12   | 13 | 14               | 15 | 16 | 17  |
|----------|----|-----|------|------|----|------------------|----|----|-----|
|          | 20 |     | 20   |      |    |                  |    | 45 |     |
| 10月17日   | 受付 | 開会式 | 基調講演 | 調査報告 | 昼食 | 実践発表<br>I・II・III |    |    | 閉会式 |

5 内容

### 基調講演

演題 「学びの質を深めるために」

講師 東京大学大学院教育学研究科 教授 秋田 喜代美

### 調査報告

テーマ 『「教務運営に関するアンケート」集計結果報告』

報告者 (東京) 佼成学園中学高等学校 教諭 築瀬 誠

### 実践発表 I

テーマ 「iPadが学校に来ると生徒・教職員はどうなるのか？」

発表者 (東京) 桜丘中学高等学校 副校長 企画広報部長 品田 健

## 実践発表Ⅱ

テーマ 「グローバル社会を下支えする教育

～かえつ有明の総合学習『サイエンス科』の取り組み～」

発表者 (東京) かえつ有明中学高等学校 英語科主任 山田英雄  
サイエンスプロジェクトリーダー

## 実践発表Ⅲ

テーマ 「キャリア教育～学校改革を目指して～」

発表者 (東京) 中村中学高等学校 副校長 永井哲明

## 6 講師プロフィール

### 秋田 喜代美

東京大学文学部社会学科卒業。銀行員、専業主婦を経て東京大学教育学部教育心理学科学士入学。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。日本学術振興会特別研究員、東京大学教育学部助手、立教大学文学部専任講師、同助教授を経て、1999年より東京大学大学院教育学研究科勤務。現在は東京大学大学院教育学研究科教授、同副研究科長、副学部長、東京大学評議員。また、日本学術会議20-22期心理学教育学会員、放送大学客員教授、国立教育政策研究所評議員、文部科学省中央教育審議会教育課程・教員養成部会委員、日本保育学会会長、日本読書学会会長、World Association of Lesson Studies, Vice Presidentを兼任。近著に「学びの心理学」(左右社)、「教える空間から学びの場へ」(共著、東洋館)、「保幼小連携 育ちあうコミュニティづくり」(ぎょうせい)、「対話が生まれる教室—居場所感と夢中を保障する授業」(2014 春刊行予定、教育開発研究所)。

## 7 運営委員・指導員(順不同)

委員長 山本 与志春(学校法人青山学院 常務理事)  
委員 小坂部 好史(学校法人日本大学第二学園 常務理事)  
伊藤 俊行(堀越高等学校 校長)  
築 瀬 誠(佼成学園中学高等学校 教諭)  
前 嶋 正 秀(かえつ有明中学高等学校 教諭)  
山 口 秀 之(成城学園中学高等学校 教諭)  
前 岡 克 美(中村中学高等学校 教諭)  
小 林 和 久(日本大学第二高等学校 教諭)

## 8 専門委員・客員研究員・指導員(順不同)

委員長 清水 哲雄(学校法人鷗友学園 常務理事)  
委員 山本 与志春(学校法人青山学院 常務理事)  
北 村 聡(京都外大西高等学校 校長)  
大多和 聡 宏(開星中学高等学校 理事長・校長)  
客員研究員 助 川 幸 彦(芝中学高等学校 前校長)

### 3 法人管理事務運営部会

グローバル化の進展に伴い、教育界においても多様化する動きへの対応が求められている。また、教育行政においても加速度的に諸改革がスタートするなど、新たな局面を迎えている。法人管理事務においても時代の変化を見据え、組織力を高め、事務や学校全体のICT化の推進など、効率的な取り組みがなされている。しかし、検討を必要とする課題も少なくない。本部会では、法人管理事務運営において、活力ある組織として、総合的な力を発揮すべく、新たな時代を見据えた意識改革や組織活性化の具体的な取り組みについて、午前中は、学校側の視点からの基調講演と企業側の視点からの組織力の活かし方についての講演を行う。午後からは、講演をもとにグループ討議として、意見交換や自校の課題を出し合いながら、研究テーマを掘り下げ、目標を探究していく。また、各グループごとの討議内容のまとめについては、発表形式での報告を行い、参加者の共有を図ることで、現場における組織の活性化に繋げていただきたいと考える。

1 研究目標 新たな時代を見据えた法人管理事務組織の活性化

2 会場 グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール

3 募集人員 100名

4 日程

| 時間<br>月日 | 9  | 10   | 11 | 12 | 13  | 14  | 15  | 16 | 17 |
|----------|----|------|----|----|-----|-----|-----|----|----|
|          | 15 |      |    | 30 | 30  |     | 15  | 45 |    |
| 10月17日   | 受付 | 基調講演 | 講演 | 昼食 | 分散会 | 全体会 | 閉会式 |    |    |

5 内容

#### 基調講演

演題 「個から群の創造 ―時代を繋ぐ学校運営―」

講師 (神奈川)聖光学院中学高等学校 理事長・校長 工藤 誠一

#### 講演

演題 「東京ディズニーリゾートに見る『おもてなしの極意』」

講師 株式会社オリエンタルランド 元理事 竹内 昭

#### 分散会

テーマ ①「講演をうけての意見交換」

②「新たな時代の事務組織についての意見交換」

③「参加者からの希望テーマによる意見交換」

※10グループ程度（1グループ10名程度）に分かれて行います。

※③につきましては、初日受付にてアンケート用紙を配付いたしますので、2日目朝に部会受付にお渡しください。

## 全 体 会

### 分散会各グループからの報告

## 6 講師プロフィール

### 竹 内 昭

1947年新潟県生まれ。1971年に公立大学法人都留(つる)文科大学を卒業し、京成百貨店に入社。1980年にオリエンタルランド入社。ショッピングセンター支配人(総務部)、ディズニー研修、商品部、人事部、運営部を経て、1997年に関係会社に出向し、(株)舞浜リゾートライン(モノレール鉄道業)代表取締役社長に就任。2005年に出向解除となり理事兼営業部長に就任。2006年に再び出向し、オーエルシー・キッチンテクノ(厨房業)代表取締役社長に就任。2008年、千葉県教育委員会高校改革委員会の副委員長として千葉県の高校にキャリア教育の導入を提案。2011年にオリエンタルランドを退職し、四社の教育・営業顧問をやりつつ、講演グループ「キャリア教育センター」を主宰、代表となる。2013年に(株)シンコー警備保障の代表取締役社長に就任、現在に至る。社長を兼務しながら全国で月2回平均の講演活動(累計80回)を行っている。主な講演先は民間の会社、市役所、商工会議所、病院、介護施設、大学、高校、教育委員会等。

## 7 運営委員・指導員(順不同)

|     |     |                         |
|-----|-----|-------------------------|
| 委員長 | 平   | 美佐子(桜丘中学高等学校 校長)        |
| 委員  | 相川  | 忠洋(麴町学園女子中学高等学校 理事長・校長) |
|     | 根本  | 欣哉(専修大学附属高等学校 校長)       |
|     | 野尻  | 富太郎(学校法人芝学園 事務局長)       |
|     | 原田  | 茂(明星学園中学高等学校 事務長)       |
|     | 三輪田 | 進(三輪田学園中学高等学校 事務長)      |
|     | 高野  | 靖敏(城北中学高等学校 事務長)        |
|     | 西田  | 久(桜丘中学高等学校 事務長)         |

## 8 専門委員・指導員(順不同)

|     |    |                         |
|-----|----|-------------------------|
| 委員長 | 工藤 | 誠一(聖光学院中学高等学校 理事長・校長)   |
| 委員  | 森本 | 純生(高崎商科大学附属高等学校 理事長・校長) |
|     | 正村 | 幸雄(学校法人鹿児島学園 理事長)       |
|     | 富本 | 道宣(富本教育研究所 所長)          |

### 〈お願い〉

「教育懇談会」のご参加は任意でございますが、翌日の「分散会」のグループ別にお席を準備させていただきますつもりでおります。親しく懇談いただくことで「分散会」の時間を有効にお使い願えれば、有り難く存じます。何とぞご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、「教育懇談会」のご参加の有無を問わず、多くの皆様方のご参加をお待ち申し上げております。

## 4 ICT活用部会

いま日本の教育はグローバル化とICTの急速な進化の渦中にあり、その時代要求によって教育の仕組みまでが大きく変貌しつつある。今後、特にICTの急速な普及によって日本の教育環境が根底から変わっていくことは間違いないと思われる。政府も2020年までに全国の小中高生に一人一台のタブレット（多機能携帯端末）を持たせる方針を固めた。

私立学校は揺るぎない建学の精神の上に立ち、その時々々の時代要求を先駆的にキャッチした教育を実現するところに存在意義がある。

本部会では最先端ICT関連企業各社の協力を得ながら、東京私学の実践事例に接していただき、ICTを活用した学びの可能性と課題を肌で感じ取っていただきたい。そして参加された先生方にとって、ICTを活用した教育をそれぞれの学校に応じてデザインし実現していただく一助となれば幸いである。

- 1 研究目標 ICT活用の最新事例に接し、課題と可能性を探る
- 2 会場 広尾学園中学高等学校（港区南麻布5-1-14 TEL03-3444-7271）  
※現地集合、現地解散（P. 25「会場のご案内」参照）
- 3 募集人員 100名

### 4 日程

| 時間<br>月日 |            |                     |              |              |            |                                                                        |                           |                           |                           |                           |                                                                        |                     |    |  |    |
|----------|------------|---------------------|--------------|--------------|------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------|----|--|----|
|          | 9          | 10                  |              | 11           |            | 12                                                                     | 13                        |                           | 14                        | 15                        |                                                                        | 16                  | 17 |  |    |
|          |            | 45                  | 30           |              | 25         |                                                                        | 10                        | 40                        | 30                        |                           | 40                                                                     | 10                  | 40 |  | 17 |
| 10月17日   | 受<br><br>付 | 開<br><br>会<br><br>式 | 公開授業<br>1時間目 | 公開授業<br>2時間目 | 昼<br><br>食 | パ<br>ス<br>カ<br>ッ<br>シ<br>ヨ<br>ン<br>パ<br>ネ<br>ル<br>・<br>デ<br>イ<br><br>① | セ<br>ミ<br>ナ<br>ー<br><br>① | セ<br>ミ<br>ナ<br>ー<br><br>② | セ<br>ミ<br>ナ<br>ー<br><br>③ | セ<br>ミ<br>ナ<br>ー<br><br>④ | パ<br>ス<br>カ<br>ッ<br>シ<br>ヨ<br>ン<br>パ<br>ネ<br>ル<br>・<br>デ<br>イ<br><br>② | 閉<br><br>会<br><br>式 |    |  |    |
|          |            |                     | 研究授業         |              |            |                                                                        |                           |                           |                           |                           |                                                                        |                     |    |  |    |

### 5 内 容

#### 公開授業・研究授業

##### ●公開授業

##### ○1時間目（45分）

- ①ロングホームルーム
- ②英 語
- ③数 学
- ④インターナショナルスクール（テクノロジー）
- ⑤インターナショナルスクール（数学）

○2時間目 (55分)

- ①理 科
- ②英 語
- ③歴 史
- ④インターナショナルスクール (サイエンス)
- ⑤インターナショナルスクール (サイエンス)

●研究授業1・2時間目 (100分)

○高校医進サイエンス

パネル・ディスカッション① (生徒編)

テーマ 「ICTについて」— 広尾学園の先生と生徒によるパネル・ディスカッション—

生徒の属性の違いから、「中学本科」、「高校医サイ・高校インター」の生徒を途中で入れ替えて実施します。生徒目線でのICTツール導入のメリット・デメリット、実際の使い方、今後の展望に関するディスカッションを予定しています。

コーディネーター (東京) 広尾学園中学高等学校 教 諭 木 村 健 太

セミナー① 「広尾学園のICT教育について」

講 師 (東京) 広尾学園中学高等学校 教 諭 金 子 暁

講 師 (東京) 広尾学園中学高等学校 教 諭 木 村 健 太

セミナー② 「Googleが考える21世紀の学習環境」

講 師 グーグル株式会社エンタープライズ教育部門 日本統括責任者 菊 池 裕 史

セミナー③ 「教育におけるWindowsタブレットの活用方法」

講 師 日本マイクロソフト株式会社文教本部産官学連携部 滝 田 裕 三

セミナー④ 「Appleと教育」

講 師 Apple Japan合同会社エデュケーション本部 本 部 長 樺 山 資 正

パネル・ディスカッション② (教員・企業編)

テーマ 「ICTの可能性を探る」— セミナー講師によるパネル・ディスカッション—

コーディネーター (東京) 広尾学園中学高等学校 教 諭 木 村 健 太

インフラやセキュリティ、ハード・ソフトウェアをはじめ、学内運用規定や教員研修、有用なアプリやサイトなどの事項についての理解を深めます。

6 運営委員・指導員 (順不同)

- 委 員 長 鈴 木 弘 (立教池袋中学高等学校 校長)
- 委 員 鈴 木 秋 司 (学校法人北豊島学園 理事長)
- 佐 藤 博 臣 (鷗友学園女子中学高等学校 教諭)
- 生 田 研一郎 (中央大学杉並高等学校 教諭)
- 勝間田 清 一 (明星学園中学高等学校 講師)
- 神 藤 健 朗 (東京都市大学付属中学高等学校 教諭)
- 木 村 健 太 (広尾学園中学高等学校 教諭)

## 5 グローバル教育部会

21世紀に入り、新興国の急速な台頭や情報通信技術等の飛躍的な発達などを背景に、グローバル化の波が我が国にも押し寄せてきている。その様な状況下で様々な分野や領域に於いて人的交流や異文化間コミュニケーションが急激に増大しつつある。こうした世界の潮流への認識のもとで国際間に於いて高い競争力と心豊かな協調性を持つことが必要となり、その為には多くのグローバル人材を育成することが急務となってきている。

しかしながら、グローバル社会は極めて多様化に富む「多文化共生社会」であり、そこで活躍するには高度な専門知識と多種多様な経験を有することに加えて、高い異文化理解力、異文化コミュニケーション能力及びIT活用力などが不可欠となってくる。これらを身に付けるには、初等・中等教育の現場で得る基礎知識は固より専門的な教育プログラムに従い、しっかりと学ぶことが重要となってくるだろう。

以上の点に鑑み、本部会では、首都大学東京の渡邊英徳准教授にご講演をお願いした。また、渡邊准教授のご講演を拝聴した後、海外留学を実際に体験された現役の学生・生徒によるパネル・ディスカッションを行って、部会参加者全員でグローバル教育を考察することができればと考えている。

1 研究目標 グローバリゼーションに対応する私学の教育

2 会 場 グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール

3 募集人員 100名

4 日 程

| 時間<br>月日 | 9  | 10          | 11   | 12                   | 13     | 14    | 15 | 16          | 17 |
|----------|----|-------------|------|----------------------|--------|-------|----|-------------|----|
|          | 15 |             |      | 30                   | 30     |       | 30 |             |    |
| 10月17日   | 受付 | 開<br>会<br>式 | 基調講演 | パネル・<br>ディス<br>カッション | 昼<br>食 | 分 散 会 |    | 閉<br>会<br>式 |    |

5 内 容

### 基調講演

演 題 「データを紡いで社会につなぐー データ時代の教育のありかた」

講 師 首都大学東京システムデザイン学部 准 教 授 渡 邊 英 徳

### パネル・ディスカッション

テーマ 「日本と諸外国を比較してどうなのか？」

日本から海外に行った、海外から日本に来た留学生同志が語り合います。

|          |                      |     |           |
|----------|----------------------|-----|-----------|
| パネリスト    | 国 際 基 督 教 大 学        | 学 生 | 大 西 梨 子   |
| パネリスト    | 早 稲 田 大 学            | 学 生 | 大 細 井 梨 沙 |
| パネリスト    | 他 大 学 より 2 名 参 加 予 定 |     |           |
| コーディネーター | (東京) 目黒学院中学高等学校      | 教 諭 | 柴 雅 彦     |
| コーディネーター | (東京) 朋優学院高等学校        | 教 諭 | 廣 木 彦 梢   |

## 分散会

テーマ 「グローバルゼーションに対応する私学の教育とは」

- ①「講演、パネル・ディスカッションを受けての意見交換」
- ②「国際理解教育、外国語（英語）教育の実践内容と今後の取り組みについて」
- ③「海外への修学旅行、語学研修、留学制度について」
- ④その他

※7グループ程度（1グループ15名程度）に分かれて行います。

## 6 講師プロフィール

### 渡 邊 英 徳

情報アーキテクト。首都大学東京准教授（2008年～）、京都大学客員准教授（2013年～）。

1996年東京理科大学理工学部建築学科卒業（卒業設計賞受賞）、1998年東京理科大学大学院修士課程修了、2013年筑波大学大学院博士後期課程修了。工学博士。2001年より株式会社フォトン代表取締役社長（現在スーパーバイザー兼取締役）。

情報デザイン、ネットワークデザインを研究。「ナガサキ・アーカイブ」「ヒロシマ・アーカイブ」「東日本大震災アーカイブ」などを制作。沖縄県事業「沖縄平和学習アーカイブ」では総合監修を担当。2013年度グッドデザイン賞「復興デザイン賞」、アルスエレクトロニカ2013栄誉賞、第40回「日本賞」優秀作品などを受賞。講談社現在新書「データを紡いで社会につなぐ」などを執筆。

## 7 運営委員・指導員（順不同）

|     |         |                    |
|-----|---------|--------------------|
| 委員長 | 須 藤 勉   | （東京学園高等学校 副校長）     |
| 委員  | 平 方 邦 行 | （工学院大学附属中学高等学校 校長） |
|     | 川 上 裕美子 | （東京音楽大学付属高等学校 副校長） |
|     | 上 野 亮   | （青山学院中等部 教諭）       |
|     | 岡 見 英 一 | （獨協中学高等学校 教諭）      |
|     | 世 古 秀一郎 | （品川エトワール女子高等学校 教諭） |
|     | 柴 雅 彦   | （目黒学院中学高等学校 教諭）    |
|     | 廣 木 梢   | （朋優学院高等学校 教諭）      |

## 6 環境教育部会

現在、世界中で地球の環境をどのように良くしていくのかが、色々と議論されている。このような状況の中で、これからの時代を生きていく生徒達に環境教育は重要であると考えて、本部会を設置した。

生物が生きていくためには、「水」が必要となる。本部会では、生きものの源となる「水」をテーマに取り上げた。

講演講師の坂田明先生は、音楽とミジンコが命で繋がるという持論から命に畏敬の念を持ち、生きることを「ことば」と「音楽」で表現している。今回は、ミジンコの生態系の研究から水と命についてお話していただき、現代の水環境・自然破壊についても言及されると思われる。パネル・ディスカッションでは、「水と生命」について、水との関わり合い・水との共存をお伝えする。事例報告として、「水の安心・安全・おいしさのための水研究」より、おいしい水の披露・水の浄化に関する最新の技術を紹介していただく。特別実践授業では、ペットボトルでミニ地球を創り、地球の生態系を模擬体験し水の重要性を考える。東京都(大島)と北海道の映像を交えた授業を行う。

地球環境・生態系における「水」の役割をご理解いただき、今後どのように人間社会は水と共存していくべきなのか、考えるきっかけになればと思う。

1 研究目標 「水」生きものの源

2 会 場 グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール

3 募集人員 100名

4 日 程

| 時間<br>月日 | 9                | 10     | 11                                                   | 12     | 13                    | 14                    | 15                         | 16          | 17 |
|----------|------------------|--------|------------------------------------------------------|--------|-----------------------|-----------------------|----------------------------|-------------|----|
|          | 15               |        |                                                      |        | 30                    |                       | 30                         |             |    |
| 10月17日   | 受<br>開<br>付<br>式 | 講<br>演 | パ<br>ネ<br>ル・<br>デ<br>ィ<br>ス<br>カ<br>ッ<br>シ<br>ョ<br>ン | 昼<br>食 | 事<br>例<br>報<br>告<br>Ⅰ | 事<br>例<br>報<br>告<br>Ⅱ | 特<br>別<br>実<br>践<br>授<br>業 | 閉<br>会<br>式 |    |

5 内 容

講演

演 題 「いのちが透けて見えるミジンコから思うこと」

ミ ュ ー ジ シ ャ ン

講 師 東京薬科大学生命科学部 客員教授 坂 田 明  
 広島大学大学院生物圏科学研究科 客員教授

## パネル・ディスカッション

テーマ 「水と命」

|          |                                                 |                    |         |
|----------|-------------------------------------------------|--------------------|---------|
| パネリスト    | ミ ュ ー ジ シ ャ ン<br>東京薬科大学生命科学部<br>広島大学大学院生物圏科学研究科 | 客 員 教 授<br>客 員 教 授 | 坂 田 明   |
| パネリスト    | 東京都水道局サービス推進部広報サービス課                            | 課 長                | 石 田 麻 紀 |
| パネリスト    | (東京) 工学院大学附属中学高等学校                              | 教 頭                | 島 田 浩 行 |
| コーディネーター | (東京) 日本学園中学高等学校                                 | 校 長                | 小 岩 利 夫 |

## 事例報告Ⅰ

テーマ 「安全・安心・おいしい水」

報告者 サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社水科学研究所 所 長 芦 刈 俊 彦

## 事例報告Ⅱ

テーマ 「水の再生リサイクル」

報告者 メ タ ウ ォ ー タ ー 株 式 会 社 技 監 栗 原 秀 人

## 特別実践授業

テーマ 「学校における環境教育授業の取組みについて～実験を織り交ぜて～」

|                          |     |         |
|--------------------------|-----|---------|
| 授業担当 (東京) 獨協中学高等学校       | 教 諭 | 塩 瀬 治   |
| 授業担当 (東京) 聖徳学園中学高等学校     | 教 諭 | 江 草 清 和 |
| 授業担当 (東京) 文京学院大学女子中学高等学校 | 教 諭 | 入 江 祥 史 |

## 6 講師プロフィール

### 坂 田 明

1945年、広島県呉市出身。広島大学水産学科卒業。1972年から1979年、山下洋輔トリオに参加、メー  
ス、ベルリン、モントリー、ニューポート・ジャズフェス等に出演。1980年より「Wha ha ha」「SAKATA TRIO」  
を結成してヨーロッパツアー、「SAKATA ORCHESTRA」でベルリン・ジャズフェスティバルに出演。以後、  
「MITOCHONDRIA」など様々なグループの結成、解体。1996年、ビル・ラズウェルと「ミジンコ空艇楽団」で  
中央アジアツアー等のプロジェクト。近年はジム・オルークとの共同プロジェクトを多数展開。「坂田  
明&ちかもらち」(ダーリン・グレイ、クリス・コルサーノ)ではアメリカ、ヨーロッパをツアー。2011  
年、ソロCD「平家物語」をリリース、2013年7月にノルウェー、モルデ・ジャズフェスティバル(坂田明、  
Johan BethLing、Paal Nilssen-Love)、8月にBerlin AL' ARME festivalに出演(坂田明、八木美知依、  
本田珠也)。12月にリスボンのMbari musicaよりCD「IRUMAN」(Giovanni di Domenico とのDUO)発売。2014  
年1月に Giovannigiovanni とヨーロッパツアー。

DVD作品:「Mijinko a Silent Microcosm」(テレコムスタッフ)。近著は「私説ミジンコ大全」CD「海」付  
(晶文社)。http://www.akira-sakata.com。

## 7 運営委員・指導員 (順不同)

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 委 員 長 | 小 岩 利 夫 (日本学園中学高等学校 校長)     |
| 委 員   | 畑 澤 正 一 (大森学園高等学校 校長)       |
|       | 村 上 精 一 (東洋女子高等学校 校長)       |
|       | 島 田 浩 行 (工学院大学附属中学高等学校 教頭)  |
|       | 塩 瀬 治 (獨協中学高等学校 教諭)         |
|       | 青 木 智 宏 (日本大学豊山中学高等学校 教諭)   |
|       | 江 草 清 和 (聖徳学園中学高等学校 教諭)     |
|       | 入 江 祥 史 (文京学院大学女子中学高等学校 教諭) |

## 7 生徒支援教育部会

「発達障害者支援法(2005年)」「障害者総合支援法(2012年)」「いじめ防止対策推進法(2013年)」制定などの社会趨勢の中、私立の中学校・高等学校の学校教育現場にも多様な生徒が入学してくるようになった。また、保護者対応、国際化、情報機器の発達などへの新たな課題も抱えるようになり、学校現場の煩雑さは急激に増加している。学校での教育活動が成果をあげるのには、教育計画を実施し、その教育目標が達成されるときである。しかし、生徒にとっては、何らかの問題を抱え学習活動に対する個別の支援を必要としている生徒も増え、今までのように個々の教師の力に頼るだけでは対応できない事例も多く報告されるようになった。今まで以上に組織をあげて取り組むことが求められている。

本部会では、教室に通う全ての生徒が共に成長する学習環境を整えるために、個々の生徒の特性を把握する基本知識を学ぶとともに、他校の事例を通し、自校に持って帰れるヒントを得ていただくことを目的として実施する。

1 研究目標 他者を理解し自己理解を図り、共に成長する学習環境の創造

2 会場 グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール

3 募集人員 100名

4 日程

| 時間<br>月日 | 9  | 10  | 11   | 12 | 13    | 14           | 15 | 16  | 17 |
|----------|----|-----|------|----|-------|--------------|----|-----|----|
|          | 15 |     | 30   | 30 | 30    |              |    | 45  |    |
| 10月17日   | 受付 | 開会式 | 講演 I | 昼食 | 講演 II | パネル・ディスカッション |    | 閉会式 |    |

5 内容

講演 I

演題 「発達障害の理解と対応」

講師 Rabbit Developmental Research 代表 平 岩 幹 男

発達障害は名前としてはよく知られていても、その言葉からイメージするものは人によってさまざまであり、そのために適切な理解に基づく支援がしばしばなされない現状となっている。発達障害は「発達の過程で明らかになってくる行動やコミュニケーションなどの障害で、現状では根本的な治療はないが、適切な対応により社会生活上の困難は軽減することができる」障害である。発達障害には自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害（ADHD）、学習障害などが含まれるが、たとえば同じ自閉症スペクトラム障害という診断がついていても、社会生活で抱える困難は一人ひとり違い、したがって対応も同じではない。これはADHDでも学習障害でも同じである。しかし発達障害における対応の原則は存在する。子どもたちのself-esteemを重視し、子どもたちが抱える行動やコミュニケーションの問題にただ叱られたり注意されたりするだけではなく、どのように認められ、ほめられて行動変容を来すかが子どもたちの現在だけではなく将来にとっても重要である。すぐに薬物療法を勧める医療機関や教育機関もあるが、基本は適切な理解に基づく対応である。

## 講演Ⅱ

演 題 「私学の生徒支援体制を考える」

講 師 (東 京)宝 仙 学 園 中 学 高 等 学 校  
(神奈川)栄 光 学 園 中 学 高 等 学 校      スクールカウンセラー      高 野 利 雄

## パネル・ディスカッション

テーマ 「教室に通う全ての生徒が共に成長する学習環境を整えるために」

|                           |                      |         |
|---------------------------|----------------------|---------|
| パネリスト                     | 保 護 者                | 今 井 絵理子 |
| パネリスト (東京) 立教池袋中学高等学校     | 教 務 部 長<br>教育相談委員会委員 | 原 真 也   |
| パネリスト (東京) 自由学園男子部中高等科    | 副 部 長                | 更 科 幸 一 |
| パネリスト (東京) 文京学院大学女子中学高等学校 | 養 護 教 諭              | 源 田 かおる |
| パネリスト (東京) 田園調布雙葉中学高等学校   | 校 長                  | 滝 口 佳津江 |
| コーディネーター 学校法人東洋大学経営企画本部   | 参 与                  | 川 合 正   |

※パネリストの今井絵理子さんには、8頁にご案内の教育懇談会でミニライブをお願いしております。

## 6 講師プロフィール

### 平 岩 幹 男

1951年福岡県戸畑市(現北九州市)生まれ。1976年東京大学医学部卒業。三井記念病院小児科、1978年帝京大学医学部小児科、1992年戸田市立医療保健センターに勤務、2001年母子保健奨励賞、毎日新聞社賞を受賞し、皇居参内。2007年同退職、Rabbit Developmental Research 開設。現在、日本小児保健協会理事、日本小児科学会監事、埼玉小児保健協会会長、東京大学医学部小児科非常勤講師、中島病院付属なかじまクリニック発達外来、独立行政法人国立成育医療研究センター理事を務める。主要著書に「みんなに知ってもらいたい発達障害」(診断と治療社、2007)、「発達障害：子どもを診る医師に知っておいて欲しいこと」(金原出版、2009)、「あきらめないで！自閉症:幼児編」(講談社、2010)、「自閉症スペクトラム障害：療育と対応を考える」(岩波書店、2012)等。

## 7 運営委員・指導員(順不同)

|       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 委 員 長 | 伊 藤 淑 子 (村田女子中学高等学校 校長)         |
| 委 員   | 金 野 眞 行 (帝京八王子中学高等学校 校長特別顧問)    |
|       | 滝 口 佳津江 (田園調布雙葉中学高等学校 校長)       |
|       | 川 合 正 (学校法人東洋大学経営企画本部 参与)       |
|       | 小 熊 北 美 (立正大学付属立正中学高等学校 教諭)     |
|       | 坂 本 太 郎 (京北中学高等学校 教頭)           |
|       | 高 野 利 雄 (宝仙学園中学高等学校 スクールカウンセラー) |

## 会場のご案内

「グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール」



最寄り駅：新幹線、JR 線、京急線品川駅(高輪口) 徒歩10分  
都営地下鉄浅草線高輪台駅 徒歩5分

### 車の場合

- アクセスは、グランドプリンスホテル新高輪ホームページをご覧ください。  
※日帰り利用の場合の駐車料金は無料。(当日クロックにてお手続きください)  
宿泊利用の場合は有料。

### 飛行機の場合 (空港からのアクセス)

- 羽田空港→(京急線) 品川 約25分
- 成田空港→(JR 特急成田エクスプレス) 品川 約90分
- 上記空港からリムジンバスをご利用の場合は、グランドプリンスホテル新高輪ホームページをご覧ください。

「広尾学園中学高等学校」（10月17日 ICT活用部会会場）



電車の場合（東京メトロ日比谷線 広尾駅下車 3番出口すぐ）

- 東京駅から 東京→（丸ノ内線）霞ヶ関→（日比谷線）広尾 約30分
- 品川駅から 品川→（J R山手線外回り）恵比寿→（日比谷線）広尾 約25分
- 新宿駅から 新宿→（J R山手線内回り）恵比寿→（日比谷線）広尾 約25分  
あるいは、新宿（都営大江戸線）六本木→（日比谷線）広尾 約30分
- 渋谷駅から 渋谷→（J R山手線内回り）恵比寿→（日比谷線）広尾 約15分  
あるいは、渋谷→（東急東横線）中目黒→（日比谷線）広尾 約20分
- 羽田空港から 羽田空港国内線ターミナル→（京急空港線・本線）東銀座  
→（日比谷線）広尾 約60分

※所要時間はおおよその時間です。また上記以外にも交通手段があり、時間帯によっては上記アクセスより所要時間が短い場合もございます。

路線バスをご利用の方は、

広尾学園中学高等学校ホームページ（<http://www.hiroogakuen.ed.jp/>）をご覧ください。

※駐車場は利用できません。公共交通機関をご利用ください。

# 参加申込みと参加費の納入について

## 1 参加申込みについて

- (1) 参加希望者は、別紙「平成26年度 第62回全国私学教育研究集会東京大会 参加申込書」に必要事項を記入し、下記送付先にFAXにて**9月26日(金)(必着)まで**にお送りください。
- 注①：2日間のご参加を原則としておりますが、やむを得ず全体集会のみに参加する場合は、「**全体集会のみの参加**」欄に○印を記入してください。(参加費は変わりません。)
- 注②：部会によっては、募集定員を超えた場合は締め切らせていただくことがございます。  
**第2希望**がある場合、申込書の第2希望欄の部会名に○印を記入してください。  
 ※特に締め切り日の1ヶ月前以降にお申込みは、第2希望欄もご記入ください。
- 教育懇談会・宿泊のお申込み** (参加費には宿泊費は含まれておりません。)  
 「教育懇談会・宿泊のお申込みについてのご案内」(p. 27～29)をお読みいただき、近畿日本ツーリスト東京第3教育旅行支店にお申込みください。【9月26日(金)締め切り】

## 2 参加費の納入について

- (1) 参加費は、お一人 **15,000円** です。(10月17日の昼食費が含まれます。)
- (2) 申込み受付後2週間以内に「関係書類送付者」の方に参加者全員分の参加確認証と併せて請求書・払込票をお送りいたします。受付内容と費用をご確認の上、ご送金ください。参加費は指定のコンビニエンスストアでお支払いいただけます。(振込み手数料は無料です。)

## 3 参加申込み後のキャンセルについて

大会への参加申込み後の変更・キャンセルについては、必ずFAXにて下記にご連絡ください。(FAX送信後、確認の電話をお願いいたします。)

参加費のご返金・キャンセル料等は下記にて取扱いますのでご了承ください。

|                                |                                                                                                  |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>10月7日(火)午後3時まで</b>          | 事務手数料1,000円を差し引いた参加費を返金                                                                          |
| <b>10月7日(火)午後3時以降<br/>無断欠席</b> | 返金はできません。<br>※研修会資料等の発送をもって代えさせていただきます。<br>※参加費の振込みをされていない場合でも、キャンセル料としてを参加費全額分(15,000円)を申し受けます。 |

## 4 個人情報の取り扱いについて

当研究所では、参加者の個人情報は、厳重に管理・保護の上、その取り扱いについては、法令その他の規範を遵守し、細心の注意を払います。参加申込書にご記入いただく個人情報は、参加確認証および大会参加のために必要な書類の送付、参加者名簿の作成、当研究所の研修会開催等情報の送付、また何らかの理由で大会の参加者に連絡する必要がある場合のみに利用いたします。

### ■ 参加申込書送付及びお問い合わせ先

一般財団法人日本私学教育研究所「第62回 全国私学教育研究集会東京大会 事務局」

(担当：田渕・福島)

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル6階

電話 03-3222-1621 FAX 03-3222-1683

## 教育懇談会・宿泊のお申込みについてのご案内

この度は、「平成26年度第62回全国私学教育研究集会東京大会」が東京都にて開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

大会の開催にあたり、ご参加の皆様の教育懇談会および宿泊の取扱いを近畿日本ツーリスト株式会社東京第3教育旅行支店にてお取扱いをさせていただくことになりました。

今大会の成功を祈念し、円滑な大会の運営業務のお手伝いをさせていただくことをお約束をいたしまして、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 教育懇談会

#### 【1】教育懇談会のお申込みについて

- ・1日目(10月16日)の全体集会終了後、下記のとおり、教育懇談会を行います。
- ・参加をご希望の方は、**平成26年9月24日(水)**までに、

**近畿日本ツーリスト株式会社 東京第3教育旅行支店**へお申込みくださいますようお願いいたします。

日 時：10月16日(木)午後5時40分～午後7時00分

会 場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

参加会費：8,000円

募集定員：800名

(定員を超えた場合は、会場の都合により、期日前でも締め切らせていただく場合がございます。)

#### 【2】お申し込み方法について

- ① 教育懇談会のお申込みは、「教育懇談会・宿泊申込書」に必要事項をご記入の上、**平成26年9月24日(水)**までに、近畿日本ツーリスト株式会社 東京第3教育旅行支店へFAX(03-6892-7328)にてお申込みください。その際、懇親会の席割りの都合上参加予定部会名を記入していただきますようご協力ください。
- ② 弊社にてお申込確認後、10月7日(火)から順次「教育懇談会参加確認証」・「請求書」をお送りします。  
**※お申込みのFAXを受領後、近畿日本ツーリスト株式会社からのご連絡は、定員を超えた場合の参加の受付のお断りの連絡以外はいたしませんので予めご承知おきください。**  
**※いただきました個人情報に関しては、教育懇談会関連の情報以外の利用は一切いたしません。**

#### 【3】お支払い方法について

- ① 教育懇談会参加確認証・請求書がお手元に届き次第、お振込みにてお支払いください(振込み手数料はお客様にてご負担くださいますようお願い申し上げます。)
- ② 教育懇談会当日の参加費の支払いはご遠慮ください。

#### 【4】変更・取消しについて

教育懇談会の参加の変更・取消については、大変お手数ですが、FAX(03-6892-7328)にてご連絡をお願いいたします。**研究集会に不参加(取消)の場合でも、教育懇談会の参加の取消・変更の手続きは、近畿日本ツーリスト株式会社までお願いいたします。**

**※注意** 10月10日(金)12時00分以降に不参加の連絡があった場合、一旦納入された参加費は返金できません。また、このときまでに参加費の振り込みがされていない場合も、100%のキャンセル料を申し受けます。研究集会終了後に改めてご請求させていただくことになりますのでご了承ください。

#### 【5】お申し込み・お問い合わせ先

近畿日本ツーリスト株式会社 東京第3教育旅行支店 担当：北村、山本、渡邊

〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3 目白坂STビル7階

Tel：03-6892-2711 Fax：03-6892-7328

## 宿 泊

### 【1】宿泊のお申し込みについて

- ①下表の宿泊代金は一泊朝食付き税・サービス料込みのシングル料金です。
- ②ツイン客室のご用意もございます。申込書に同室のお客様氏名をご記入ください。
- ③ご希望ホテルが満室の際は、代案ホテルをご提示させていただきます。あらかじめ申込書には第2希望までのご記入をお願いいたします。また、予約が集中した際はご希望に添えない場合もあります。その際は代案をご提示いたしますので予めご承知おきください。また、禁煙・喫煙のご希望にも添えない場合もございます。

| 利用ホテル名                                                | 部屋タイプ        | 料金      | 申込記号 |
|-------------------------------------------------------|--------------|---------|------|
| グランドプリンスホテル新高輪<br>最寄駅：J R・京急品川駅<br>(研修会場)             | ツイン1名利用 (禁煙) | 18,200円 | A-1  |
| 品川プリンスホテルイーストタワー<br>最寄駅：J R・京急品川駅<br>(研修会場より徒歩10分)    | シングル (禁煙)    | 11,880円 | B-1  |
|                                                       | シングル (喫煙)    | 11,880円 | B-2  |
| 高輪東武ホテル<br>最寄駅：J R・京急品川駅<br>(研修会場より徒歩5分)              | シングル (禁煙)    | 12,100円 | C-1  |
|                                                       | シングル (喫煙)    | 12,100円 | C-2  |
| 東急ステイ蒲田<br>最寄駅：京急蒲田駅<br>(京急品川駅から京急線利用)<br>※移動所要時間約20分 | シングル (禁煙)    | 9,200円  | D-1  |
|                                                       | シングル (喫煙)    | 9,200円  | D-2  |

### 【2】お申し込み方法について

- ①宿泊のお申込は「教育懇談会・宿泊申込書」に希望事項をご記入の上、FAX (03-6892-7328) にて、近畿日本ツーリスト株式会社東京第3教育旅行支店へ  
**平成26年9月24日(水)までにお申し込みください。**
- ②宿泊お申込をいただいたのち、当社から、お送りいただいた申込書面にその可否を記入し、FAXにて返信いたします。
- ③予約可否回答後10月7日(火)から順次「予約確認証」・「請求書」を発送いたします。  
※お申し込みのFAXを受領後近畿日本ツーリストからの連絡は、上記の可否回答および、定員を超えた場合の連絡以外はいたしませんので予めご承知おきください。

### 【3】お支払い方法について

- ①予約確認証・請求書が届き次第、お振込みにてお支払いください (振込み手数料はお客様にてご負担くださいますようお願い申し上げます。)
- ②宿泊代金をホテルで直接精算することはご遠慮ください。

### 【4】変更・取消しについて

- ①必ずFAX (03-6892-7328) にてご連絡をお願いいたします。
- ②取消料金は下記をご参照ください。

| 宿 泊 | 取消日 | 7日～3日前 | 2日～前日 | 当 日 | 無 連 絡 |
|-----|-----|--------|-------|-----|-------|
|     | 取消料 | 30%    | 40%   | 50% | 100%  |

### 【5】お申し込み・お問い合わせ先

近畿日本ツーリスト株式会社 東京第3教育旅行支店 担当：北村、山本、渡邊  
〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3 目白坂STビル7階  
Tel：03-6892-2711 Fax：03-6892-7328

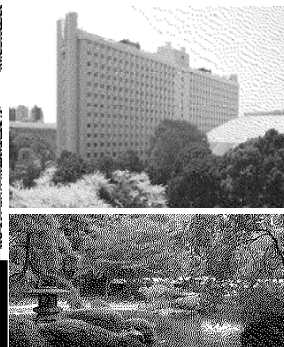
## <宿泊ホテルのご案内>

### グランドプリンスホテル新高輪

〒108-8612 東京都港区高輪3-13-1  
TEL03-3442-1111 FAX03-3444-1234

#### ■アクセス

J R品川駅『高輪口』より徒歩で約10分。  
都営浅草線高輪台駅から徒歩で約5分。  
駐車場有 1000台



チェックイン 14:00  
チェックアウト 11:00

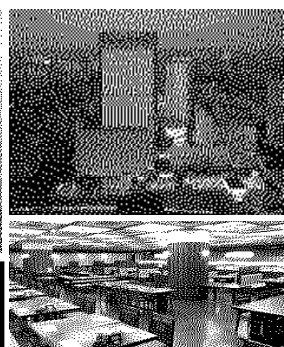
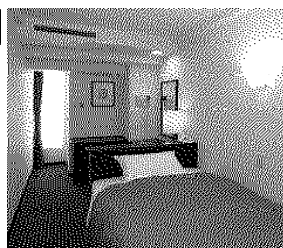
※緑濃い高輪に、都市ホテルでありながら全室バルコニーが付き、あたたかい心のかようなホテルです。

### 品川プリンスホテルイーストタワー

〒108-8611 東京都港区高輪4-10-30  
TEL03-3440-1111 FAX03-5421-7888

#### ■アクセス

J R品川駅『高輪口』より徒歩で約5分。  
駐車場有 250台



チェックイン 14:00  
チェックアウト 11:00

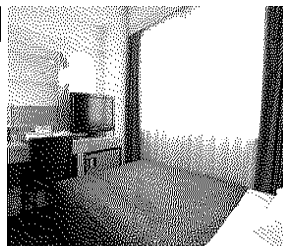
※ビジネスに最適なホテルです。全室シングルルームを用意し、心休まるくつろぎのひとときをお届けします。

### 高輪東武ホテル

〒108-0074 東京都港区高輪4-7-6  
TEL03-3447-0111 FAX03-3447-0117

#### ■アクセス

J R品川駅『高輪口』より徒歩で約7分。  
都営浅草線高輪台駅から徒歩で約10分。  
駐車場有 15台



チェックイン 15:00  
チェックアウト 11:00

※静寂とプライバシーが保たれた、使い勝手の良いゆったりとした室内です。ビジネスの拠点として、お気軽にお役立てください。

### 東急ステイ蒲田

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-23-1  
TEL03-5714-1090 FAX03-5714-1091

#### ■アクセス

京急蒲田駅『西口』より徒歩約3分。  
J R蒲田駅『東口』より徒歩約8分。  
駐車場無



チェックイン 15:00  
チェックアウト 11:00

※羽田空港から約8分。都心とはまた異なる魅力に溢れた蒲田で、快適なステイをお楽しみいただけます。



# 平成26年度 第62回全国私学教育研究集会東京大会 参加申込書

申込み締切日：9月26日（金）

※教育懇談会は、次頁の「教育懇談会および宿泊申込書」にてお申込みください。

|                   |                                                          |  |  |
|-------------------|----------------------------------------------------------|--|--|
| 申込書<br>送付・<br>送信先 | 一般財団法人日本私学教育研究所「第62回全国私学教育研究集会東京大会事務局」宛 Tel.03-3222-1621 |  |  |
|                   | FAX：03-3222-1683                                         |  |  |
|                   | 郵 送：〒102-0073 東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル6階                  |  |  |
|                   |                                                          |  |  |

平成26年 月 日

|           |                    |  |  |       |     |  |  |
|-----------|--------------------|--|--|-------|-----|--|--|
| 都道府県名     |                    |  |  | 学 校 名 |     |  |  |
| 学 校 所 在 地 | 〒 (郵便番号は必ずご記入ください) |  |  |       |     |  |  |
|           | TEL                |  |  | FAX   |     |  |  |
| 関係書類送付先   | 所属・職名              |  |  |       | 氏 名 |  |  |

◆すべての参加者の参加確認証および参加費の請求書・払込票は一括して「関係書類送付先」宛にお送りいたします。  
（原則として、学校所在地欄に記載された住所にお送りいたします。）※記入のない場合はNo. 1に記載された参加者にお送りします。

|                     |     |                             |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------|-----|-----------------------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日私<br>教研<br>記入<br>欄 | No. | ふりがな<br>氏 名                 | ( 職 名 )<br>性 別 | 参加希望<br>部 会                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                     | 例   | とうきょう たろう                   | ( 校 長 )        | <div>※希望する部会を第1・2希望をそれぞれ□で囲んでください。<br/>会場の収容人数等により第2希望になる場合がございますのでご了承ください。</div>                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                     |     | 東 京 太 郎                     | 男・女            | 第1希望                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 第2希望                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                     |     | 第1希望私学経営、第2希望法人管理事務運営会参加の場合 |                | <input checked="" type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加 | <input checked="" type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                     |     | 1                           |                | ( )                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 男・女                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 第1希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加 | 第2希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加 |
|                     |     | 2                           |                | ( )                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 男・女                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 第1希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加 | 第2希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加 |
|                     |     | 3                           |                | ( )                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 男・女                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 第1希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加 | 第2希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加 |
| 4                   |     | ( )                         | 男・女            | 第1希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加    | 第2希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 5                   |     | ( )                         | 男・女            | 第1希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加    | 第2希望<br><input type="checkbox"/> 1.私学経営 <input type="checkbox"/> 2.教育課程<br><input type="checkbox"/> 3.法人管理事務運営 <input type="checkbox"/> 4.ICT活用<br><input type="checkbox"/> 5.グローバル教育 <input type="checkbox"/> 6.環境教育<br><input type="checkbox"/> 7.生徒支援教育 <input type="checkbox"/> 8.全体集会のみ参加    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

※参加者が6名以上の場合は、恐れ入りますが本用紙をコピーしてご使用下さい。なお、その際、上欄の学校名を各々に記載し、2枚目以降のNo.を6、7、…、のように訂正してください。また、右欄（No. ）に1、2、…、のように番号を記入してください。

No.

日私教研記入欄

切り取り線



|              |            |            |                        |  |
|--------------|------------|------------|------------------------|--|
| ふりがな         | 〒          |            | ご担当者氏名                 |  |
| 学校名<br>(団体名) | 都 道 府 県    |            | TEL:<br>FAX:           |  |
| 請求書宛先        | 学校・その他 ( ) | 学校・その他 ( ) | 緊急連絡先 (当日) 電話番号<br>- - |  |

**教育懇談会** ※教育懇談会確認書類は10月7日(火)から順次担当者様へ参加者全員分の参加確認証・請求書等をお送りいたします。

| No. | 参加者氏名 (ふりがな)      | 部会名  | 職名 | No. | 参加者氏名 (ふりがな) | 部会名 | 参加者氏名 (ふりがな) | 部会名 | 職名 |
|-----|-------------------|------|----|-----|--------------|-----|--------------|-----|----|
| 例   | 東京 花子 (とうきょう はなこ) | 私学経営 | 教諭 | 3   | ( )          | ( ) | 6            | ( ) |    |
| 1   | ( )               |      |    | 4   | ( )          | ( ) | 7            | ( ) |    |
| 2   | ( )               |      |    | 5   | ( )          | ( ) | 8            | ( ) |    |

**宿 泊** ※宿泊関係確認書類は10月7日(火)から順次宿泊申込者 No.1 のお客様宛に予約確認証・請求書等をお送りいたします。

| No. | 氏名 (ふりがな)         | 性別 | 禁煙・喫煙 | 宿 泊      |      |          |      | 同室希望者氏名<br>※ツインルーム等1室2名以上の宿泊をご希望される方は同室の方の氏名をご記入ください。 |          |
|-----|-------------------|----|-------|----------|------|----------|------|-------------------------------------------------------|----------|
|     |                   |    |       | 10/15(水) |      | 10/16(木) |      |                                                       | 10/17(金) |
|     |                   |    |       | 第一希望     | 第二希望 | 第一希望     | 第二希望 |                                                       |          |
| 例   | 東京 花子 (とうきょう はなこ) | 女  | 禁煙    | ×        | ×    | ×        | ×    | (氏名)<br>なし<br>(備考)                                    |          |
| 1   | ( )               |    |       |          |      |          |      |                                                       |          |
| 2   | ( )               |    |       |          |      |          |      |                                                       |          |
| 3   | ( )               |    |       |          |      |          |      |                                                       |          |
| 4   | ( )               |    |       |          |      |          |      |                                                       |          |
| 5   | ( )               |    |       |          |      |          |      |                                                       |          |

※9/24 まで 申し込み 申し込み

※10/7 から順次 参加・宿泊等予約確認証・請求書 入金 入金

「懇談会参加確認証」をお持ちください

「懇談会参加確認証・請求書」受取 入金 入金

近畿日本ツーリストより送付いたします。

【受付・入力】

① ご記入漏れ・忘れにご注意ください。宿泊申し込みに関しましては、必ず第2希望までご記入ください。本書面にて受付後宿泊予約に関するご回答をいたします。

② 取消・変更の際は、この用紙に取消・変更箇所を記入して、FAXにてお送りください。

③ 代金振込みの際の控え（明細書）をもって、領収証の代わりとさせていただきます。

④ この参加申込書は、控えとして必ずお持ちください。

⑤ 5名様以上ご一緒にお申し込みの場合は、この用紙をコピーしてお使いください。

⑥ お預かりしました個人情報につきましては、当社の社内規定ならびに個人情報保護の法律に基づき、大会運営ならびに宿泊予約に必要な場合のみ利用いたします。

通信・回答欄





